

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第10回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



「JR革マル43名リスト」裁判

昨年9月22日、松崎とJR総連・東労組側は東京地裁にいわゆる「JR革マル43名リスト」訴訟を提起した。同裁判の被告は、東労組からの除名者及び脱退者で結成されたジェイアール労働組合の母体となった東労組を良くする会を起ち上げた嶋田邦彦、本間雄治、小林克也、阿倍克幸、新妻和裕、峰田尚男、齋藤藤俊、篠塚哲司、内谷仁の各氏である。他方、原告側は、顧問＝松崎明、団長＝石川尚吾&小田裕司、副団長＝千葉勝也&鎌寛司、事務局長＝大淵慶逸、事務局次長＝齋藤弘敦の豪華メンバーが「原告団」を構成している。…ところで、なぜ突然的に昨年9月訴訟を提起したのかということだ。…四茂野修氏原告【「週刊現代」関係裁判】での昨年7月行われた四茂野氏に対する反対尋問において次のようなやりとりがあった。…

（代理人）「週刊現代の記事であなたご自身としては提訴までしたわけですがけれども、東労組を良くする会という組織がリストを公表したというわけですから、そこに抗議なりしてもよさそうに思うんだけど、それをしなかった理由は？（四茂野）ほとんど彼らは組織の体をなさなくなってきたてきておりましたし、もう間もなく解体していくであろうということをはっきりしていましたから、あえてそのようなことをする必要を感じませんでした。…

私の考えるところ、上掲のやりとりが伏線となって昨年9月の突然的な松崎とJR総連・東労組側による「JR革マル43名リスト」訴訟の提起がなされた。…この裁判は、松崎盲従JR総連・東労組への甲鐘となる可能性が大だ。裁判の9名の被告は、その大方が東労組の幹部役員であり、かつては松崎信奉者であり、松崎に目をかけられ、松崎の薫陶を直接受けた人々だからだ。…要するに「JR革マル43名リスト裁判」の被告9名の多くは、入党しなかったことから「同盟員」ではないが、「非同盟員」としての【革マル派構成員】であったことは間違いなく、「FLC」（フラクション指導部）、「RF」（革命的フラクション）、「LF」（左翼的フラクション）、「学習会」等の活動単位にそれぞれ編入されていたか、または、「LD」（『解放』読者）に位置付けられていたということである。そして、松崎明は別格として、セクト名「立花」の小田裕司氏や、セクト名「南雲巴」こと坂入充氏などはおそらく「同盟員」だということになるのであろう。いずれにせよ、被告9名の錚々たる経歴からして、同裁判の進行過程において、松崎とJR総連・東労組側にとって不都合な「衝撃的真実」が暴露され、松崎とJR総連・東労組側が窮地に追い込まれることは確実だと私は思っている。しかし、被告らにとってこれは松崎元会長とその盲従者側から仕掛けられた戦争だ。自己防衛の戦いとして、知る限り全ての真実を明らかにして対抗しようとするのは当たり前のことである。「JR東日本革マル問題」ウォッチャーの一人である私としては実に楽しみな展開であるが、「驕り」かそれとも「老耄」か、やはりこれも、このところとみに目立つ、松崎の戦略・戦術の“誤算と蹉跌”の大きな一つとして位置づけられるべきものであろう。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.99～P.103】